

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3474400359		
法人名	NPO法人エルダーサポート協会		
事業所名	グループホーム愛の郷 神辺		
所在地	福山市神辺町上御領391-1		
自己評価作成日	平成29年9月20日	評価結果市町村受理日	平成29年12月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと		
所在地	広島県福山市平成台31-34		
訪問調査日	平成29年10月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所が閑静な田園地帯に位置している事で季節を感じ、穏やかに過ごしていただける環境にある。入居者様本位に、皆様が笑顔で過ごして頂ける様、全職員が笑顔をもっとに思いやりの介護、安心・安全の介護を実践している。また日々の生活の中に体操やレクリエーションを取り入れ、楽しい時間作りをしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年朝の申し送り時に個人目標を発表し、「目標ノート」を作成、一日の反省や取り組みなどを順番に書き込んでいる。他の職員からも気づきやアイデア、感想などが寄せられ、職員間を結びつける原動力となっている。この取り組みを通し、職員は互いを認め合い、励まし、信頼関係を深め、業務に励んでいる。また、利用者理解に努め、個別の声かけを工夫し、笑顔で接し、利用者本位のケアに取り組んでいる。家族の思いを汲み取り、できることとできないことを明確にし、職員間で認識を共有し、家族との信頼関係を築いている。その結果、利用者は個性を尊重され、穏やかに暮らしている。管理者は利用者、家族、職員と向き合い、本音で語り合い、より良い運営を目指して努力している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	特定非営利活動法人 あしすと			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時に法人の理念を唱和しその日の個人目標を順番に発表。目標の達成結果と反省をノートに書き込みスタッフ間で思いを知り理解する、それについて他のスタッフがコメントを書き込む様になりヤル気にも繋がっている。	朝礼時に職員の目標を順番に発表し、取り組みや反省点を明記する「目標ノート」を作成。他の職員から気づき等、自主的なコメントの書き込みも行われ、互いに切磋琢磨する姿勢が見られる。一人ひとりの利用者に敬意を表し、理解に努める活動は法人理念の共有と実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の溝掃除や行事に積極的に参加している。「子ども110番」や小・中学校の職場体験等の受け入れにも協力し、老人会とのカラオケ大会も始めて入居者と子ども達・お年寄りとの交流の場を設けている。地域の方からの野菜の差し入れもある。	地域の行事などに積極的に参加している。また、事業所で老人会とのカラオケ大会を開催し、その縁で公民館活動にも誘われるなど、交流を深めている。中学生による職場体験では、認知症の事前学習にも取り組み、双方向の関係が始まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者と一緒に散歩したり、玄関先で日向ぼっこやレクリエーションをする姿を地域の方に見て頂き挨拶等、声掛けを大事にしている。老人会との関わりを持つ。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度開催している。介護保険課・地域包括・町内会長・民生委員・老人会長・本社の方々に参加して頂き、利用状況や行事・研修会の内容等を報告する。頂いた意見を職員に報告し、事業所のサービス向上に努めている。	2ヶ月に1度定期的に開催している。日常の取り組みや活動報告に加え、薬や感染症など、本社研修で学んだことを会議の場で伝え、地域にも有益な情報を還元し、意欲的に取り組んでいる。	運営推進会議へ家族の参加を促し、公民館活動など、地域の誘いには積極的に参加して交流を深めたい。また、地域住民にも働きかけ、会議への参加を促すなど、更なる取り組みが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席して頂き意見を頂いたり、介護保険課・生活福祉課などの窓口の担当者と必要に応じて日常的に連携している。	定期的に市町村担当者を訪ねている。困ったことや分からないことがあれば、直接訪問したり、電話でアドバイスをもらうなど、日頃から協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束しないケアに努めている。帰宅願望に対しては、施錠等せず外に出ようとされる方に対して優しい声掛けと付き添いで気分転換に散歩やドライブ等を行い、職員同士が協力して対応している。「自分の親なら」を頭に置いての対応をしている。	利用者理解に努め、気持ちを尊重し、穏やかな声かけで接し、利用者が安心できる対応を心がけ、不安や混乱を取り除いている。家族や職員間で話し合い、研修を重ね、対応を検討している。また、職員の気になる対応は先送りせず、率直に話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	プロ意識を持ち笑顔の対応を心掛けている。気になる対応には直ぐに注意し先送りしない。「自分の親だったら」を頭に置いた対応を心掛ける。本社のスキルアップ研修にも取り上げているので必ず参加し、勉強した事を全職員で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見人制度を利用する事になった入居者がおられ学ぶ事ができた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、書類(重要事項・契約書等)を通して十分に説明を行っている。改定等があった時は、口頭での説明だけでなく書面にして理解・納得を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1度、本社から無記名のアンケートを送付する・月に1度、写真入りの「便り」と担当者から入居者の近況を手紙で伝える・訪問時は会話を大切にすることで意見や要望を頂き家族との信頼関係を築くと共に運営に反映している。	毎月、利用者の様子を伝える手紙を家族に出し、訪問時には常に話しかけ、信頼関係を築いている。無記名アンケートの結果や家族からの意見、要望などは実現に向けて職員間で話し合い、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時や月1回のミーティングでスタッフに意見や気付き・提案を聞きとり運営に取り入れている。また、個々にもしっかり声掛けを行い本音で話をする事で人間関係を築き、出された意見・提案を運営に反映している。	日ごろからコミュニケーションを図るよう心がけ、ミーティングでは全員の発言を促し、出された意見や提案は実践できるように取り組んでいる。特に「目標ノート」には、忌憚のない職員間の意見やアイデアが出され、有効に活用している。	家族へのお便りに、「目標ノート」からの抜粋を掲載し、職員の思いや取り組む姿勢、意見や工夫点を外部にも発信し、利用者、家族、職員が一体となる取り組みが期待される。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に勤務状態を把握し、遣り甲斐の出る声掛け(褒める・助かっている等)や対話を持ち、仕事を楽しいと思える環境作りに努めている。努力を認め、感謝を伝えるように心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回、本社で行われるスキルアップ研修に参加を促し、学んだ事はミーティング等で他のスタッフにも伝達し皆で研修している。持っている技術や知識は、その都度、安心・安全の対応をすべく伝えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の事業所間での交流・研修会等で知り合った同業者とも交流を深め、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いや願い・趣味・嗜好品等を聞き取り、笑顔の声掛けや対応で不安感を持たせない様に努めている。入居時は他者との交流の橋渡しをして孤独感を感じさせないように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居までの労をねぎらい、家族の思いや困っている事・要望・願いをしっかり聞き取り、安心・安全の対応で信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居以前に関わってきた施設等でしっかり聞き取りをし、本人と面談をして現在の状態を確認する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事は取り上げず見守り支援する。洗濯畳み・机拭き・野菜の皮むき等、お手伝いをして下さった時は「ありがとう」「助かります」の言葉を添えて「役に立っている」との思いを感じて頂ける様に支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に、入居者の日頃の頑張りや様子を、来所時や手紙にしたため報告している。ご家族が来所し易い雰囲気作り・声掛けを全スタッフが心掛けています。体操やレクと一緒に参加して頂く事で入居者の笑顔が引き出せる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・親戚・知人が気軽に訪ねて来易い雰囲気作りにも努め、積極的に会話をしたりゲームや体操に参加して頂くなど、入居者と関わりが出来る対応をしている。	職員の対応がにこやかで、家族、知人、親族などいつでも気軽に訪ねて来られる雰囲気がある。利用者の希望に沿って、外出や冠婚葬祭などに職員が同行し、繋がりを継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が関わりを持てるように職員が間に入り、皆に分かり易い話題を提供し、一緒に笑える場・時間など楽しい雰囲気作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りまでの対応をさせて頂いた時は、入居期間に撮った写真をアルバムにしてプレゼントしている。残された御家族にお会いした時は、近況をお尋ねしたり挨拶をかわし繋がりを大事にしている。退去された後も来所やTELを頂ける関係である。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	優しく明るい声掛けと笑顔の対応で、入居者が自分の希望や思いを言い易い雰囲気作りを努めている。「～したい」の思いを大事にしている。困難な場合は、表情や動きから思いをくみ取る努力をしている。	ちょっとした変化も見逃さないよう、細やかな声かけと観察を心がけている。日頃から声かけに努め、意見や要望を汲み取っている。職員の企画を実践し、家族に意見を求め、化粧やネイルを楽しんでいる。利用者が喜び、笑顔を増やせるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族に、これまでの暮らしぶりを聞きとり。介護サービスを利用されていた方は、利用中での様子等を事業所に情報を頂く。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送り時、1人ひとりの心身の状態を報告する。職員全員で共有できる様、申し送りノートを作り漏れの無い様に対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは3ヶ月に1回と様子が変わるたびに行い、介護計画は6ヶ月に1回見直しをしている。申し送り時やミーティング等で個々の状況を確認し合い、家族の要望を反映した介護計画を作成し同意を得ている。	日常的な会話を通して家族から意見や思いを拾い上げている。担当の職員から個々の状況を確認し、3ヶ月に一度のモニタリングを行い、カンファレンスで職員の意見交換を行って介護計画を作成している。又、利用者の状態や状況に合わせ、必要に応じた介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に記録し、申し送り時に口頭で詳しく伝えカンファレンスに沿った介護記録に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の状態観察をしっかり行い、その方にとって1番良いであろう対応を全職員で心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学生や中学生の職場体験、老人会との交流、地域の方による美美容室を利用し、本人が楽しみを感じ生き生きと生活できる様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族が希望するかかりつけ医への受診支援を行っている。緊急時も協力医が状況に応じて受け入れ先を確保しスムーズに対応出来ている。医師との連携を蜜に状況を小まめに伝え家族にも安心の医療体制を築いている。	かかりつけ医への受診は職員が同行し、医師からの情報は家族にも伝えている。また、協力医への受診希望が多く、2週間に一度の往診がある。医師との信頼関係を築き、利用者の状況を細かに伝えることで適切な医療を受けることができるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1人ひとりの日々の状態を介護者がしっかりと把握し看護師に気づきや状態の変化を報告・相談している。受診時には看護師が付き添い対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	入院者にはホームの協力医に相談して入院先への受け入れ対応がスムーズにできる。入院期間には面会に訪れ病院関係者との情報交換や相談にも努めている。入退院時の送迎は事業所で行い家族に安心を提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の指針を作成し入居時に説明している。看取りの希望者が多い。その人らしい最後を迎えられるよう、職員は医師の指示に従い、主治医・訪問看護・事業所の看護師と連携し対応している。家族の付き添い・泊りも可能にして、立ち会いやすい環境を作っている。	早い段階から、事業所で出ることや出さないことを家族に説明している。本人や家族の意向を確認し、安心した終末期の支援ができるよう医師や看護師、職員が連携を取っている。ほとんどの利用者が看取りを希望し、事業所での家族の付き添いや泊りも対応できるよう、体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生に備えて、職員が慌てることの無い様、マニュアルを作成し、医師との連携を図るよう方針を共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、火災・通報・避難訓練を、夜間と昼間を想定し行っている。災害に備えて、各居室の名札の裏面に「避難完了」の張り紙をし入居者が安全に避難出来るよう対策をしている。	消防署の協力を得て、年2回利用者とともに昼夜の火災を想定した避難訓練を実施している。また、事務室に緊急時の対応や連絡先きを記したマニュアルを壁に貼り、全ての職員が対応できるように備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「自分の親なら」との思いを常に持って対応している。1人ひとりの入居者を理解し遠慮せずに話し合える関係を築き、その訴えに沿えるよう努めている。運営理念にもあるように、敬意と尊敬、慈しみを持って接している。	頻回にある排泄の訴えにも快く対応し、トイレのドアをあけたまま使用する方には何気ない声かけやさりげなくドアを閉め、人格や誇り、プライバシーを損ねることが無いよう、心掛けている。援助が必要な時も利用者の思いを汲み、寄り添った対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から言葉以外のスキンシップにも心掛け、気を使わず思いを伝えて貰える様に対応している。「～したい」の希望・訴えには出来るだけ意に沿える様に対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の出来る事・したい事を自分のペースでして頂き、家庭的な生活・押し付けない・取り上げない自由な生活が出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毛染め・顔そり等、希望されれば出来るだけの対応をしている。女性に「マニキュア・化粧」をする機会をもったが、マニキュアに関しては「生まれて初めてした」ととても喜ばれた。おしゃれする事の喜びを感じて頂けるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を聞き取り、メニューに取り入れられたり、その時期の旬の食材を提供し季節を感じて頂けるようにしている。野菜の皮むき・机やおぼん拭き等、出来る事をして頂く事で「一緒に」を大切にしている。	長事は職員が手作りしている。皮むきやもやしの手取りなど、一人ひとりの力を活かしながら利用者と一緒に準備・後片付けをしている。食事時にはテレビを消し、唱歌など、懐かしく、親しみのある曲を奏で、職員との会話を楽しみ、和やかに食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりの食事量や水分摂取量を把握し、不足している部分は嗜好品や栄養補助剤でバランスをとっている。要求される方には、夜間でも水分摂取が出来る様に居室にお茶を持ち込み対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。自分で出来ない方や、十分なケアが出来ない方は職員がしっかり援助している。うがいが出来ず飲み込まれる方には、お茶での対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の入居者の排泄パターンを把握し、その都度声掛けを行い、トイレでの排泄・パット交換を行っている。	個々の排泄パターンに応じ、声かけを行っている。頻回にある排泄介助の要望も、先延ばしせず、職員がすぐに対応し、トイレでの排泄支援と排泄の自立に向けた取り組みを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、軽運動を行ったり、水分摂取量や排便チェックを記録し、早めの便秘解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回、必ず入って頂けるような対応をしている。一般浴と機械浴に分かれて行っている。入浴が嫌いな方には声掛けを工夫し、異性の職員による入浴介助を嫌がる方には希望を受け入れ対応している。	利用者が寛いで入浴できるよう、会話を工夫し、希望によって同性の職員による入浴介助もしている。利用者の状態に合わせた機械浴の設備もあり、全ての利用者が湯船に浸ることができる。入浴を嫌がる利用者は少なく、楽しみごとの一つとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調に合わせて日中は自由に横になって頂き、夜間は本人の希望に沿って照明などの調節をし安心して休めるように対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬量と副作用に注意し状態観察に努めている。薬はお膳の上に分かり易い器に入れて必ず服薬確認をしている。お膳に置いておけない方は、食後に職員が声掛けし服用して頂くようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手作業・散歩・読書など出来る事・したい事を把握し毎日のレクリエーションに取り入れたりメリハリのある1日となるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自然環境に恵まれて車の量も少ない為、個々の体調に合わせて、散歩や庭先に出での日光浴など日常的に取り組んでいる。家族の協力を得てベイファームへ花を観にドライブしたり、動物園に行くなど、外出の支援を行っている。	季節に合わせ、庭先での日光浴や近所への散歩、ドライブ等、利用者の希望に合わせ、体調を考慮して日常的に支援している。家族の協力を経て年2回は全員で遠出もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は難しいが、家族の了解の下、欲しい物の購入を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は本人の希望をかなえている。手紙は、職員と一緒に近くの郵便局まで散歩がてら歩いて行き投函する。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は毎朝消毒し、清潔を保っている。空調は小まめな温度調節を行い管理している。入居者と職員で季節にあった壁面作りをし、それを飾る事で季節を感じられる様に努めている。	掃除が行き届き、適温で心地良い。トイレの位置は利用者が集うホールからは直接眼につかない位置にあり、羞恥心への配慮がされている。習字や季節の飾りなど、利用者の手作り作品が置かれ、季節感を取り入れるなど、和やかで温かい雰囲気があり、居心地良く暮らせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にソファを置いたり、畳を敷いた場所作りをして自由に使用できる空間を作っている。居室には好きな時間に戻られ、時には仲良しで居室にお邪魔し楽しく会話もされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの個性を感じさせる居室にと家族の写真や手作り品・本・使い慣れた家具等、居心地良く過ごせる工夫をしている。	これまで使用していた机や筆筒が持ち込まれ、使い勝手良く配置されている。また、居室からは畑や果樹などの景色を遠くまで見渡すことができる。家族の写真や思い出の品を飾るなど、各々に個性があり、居心地良く暮らせる部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで安全にし、トイレ・洗面・居室の表示で自立した生活が出来る様に工夫している。		

目標達成計画

作成日:平成 29 年 12 月 4 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議へ御家族への参加を促す	家族会を開催し、会長・副会長の選出をする。 会議への出席をお願いする。	家族会の予定を立て、出席者をつのる。	12ヶ月
2	35	災害対策における地域との協力体制の強化	災害対策における地域との協力体制の確立	年2回行っている避難訓練に地元の消防団や住民にも参加して頂き、ホームの内外を知ってもらう。	12ヶ月
3	11	利用者・家族・職員が一体となる取り組みをする。	家族へ職員の思い、努力する姿を分かりやすく伝え、知ってもらう。	日々の職員の目標や思いを月1回送付する便りの中に掲載する。	3ヶ月
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。